

高等教育の修学支援新制度の機関要件確認申請について

法令により確認申請書類「様式第2号」を本学HPにて公表する。また、次の資料①～⑨についても併せて公表する。

【様式第2号の1—(2)】

資料① 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

【様式第2号の2—(1)】

資料② 理事（役員）名簿

【様式第2号の3】

資料③ 授業計画書

資料④ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

資料⑤ 客観的な指標の算出方法

資料⑥ 卒業の認定に関する方針

【様式第2号の4—(2)】

資料⑦ 財産目録

資料⑧ 事業報告書

資料⑨ 監事による監査報告書

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配 置 困 難
理容美容専門課程	理容科	夜・通信	49	6	
		夜・通信			
理容美容専門課程	美容科 美容コース	夜・通信	49	6	
	美容科 トータルビューティーコース	夜・通信	50	6	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.oka-kenribi.ac.jp>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

実務経験のある教員等による授業科目

課程名	学科名	コース名	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数	省令で 定める 基準 単位数	配 置 困 難
			科目名		
			関係法規	1	
			衛生管理	3	
			保健	3	
			香粧品化学	2	
			文化論	2	
			運営管理	1	
			理容技術理論	5	
			理容実習	30	
			ビジネス教養	1	
			アツサン	1	
			ライセンスセミナー	2	
			カウンセリング	1	
			毛髪科学	1	
			商品知識	1	
			理容総合技術	13	
			実務経験のある教員等による 授業科目の単位数の合計	49	

理容美容専門課程

美容科

美容 コース	関係法規	1	
	衛生管理	3	
	保健	3	
	香粧品化学	2	
	文化論	2	
	運営管理	1	
	美容技術理論	5	
	美容実習	30	
	ビジネス教養	1	
	デッサン	1	
実務経験のある教員等による 授業科目の単位数の合計		49	
トータル ビューティー コース	関係法規	1	
	衛生管理	3	
	保健	3	
	香粧品化学	2	
	文化論	2	
	運営管理	1	
	美容技術理論	5	
	美容実習	30	
	ビジネス教養	1	
	デッサン	1	
実務経験のある教員等による 授業科目の単位数の合計		50	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.oka-kenribi.ac.jp>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤 中原 一郎	理容組合 理事長	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
非常勤 太田 佳徳	理容組合 副理事長	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
非常勤 坂本 勝史	理容組合 副理事長	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
非常勤 中嶋 實人	美容組合 理事長	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
非常勤 杉 茂典	美容組合 副理事長	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
非常勤 那須 繁一	美容組合 副理事長	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
非常勤 神田 益穂	元県職員	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
非常勤 古南 篤子	元県職員	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
非常勤 合六 秀樹	理容組合 教育部長	2021.7.16 ～ 2024.7.16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進

非常勤 清水 善光	美容組合 教育部長	2021. 7. 16 ～ 2024. 7. 16	健全な学校経営及び運営の為の協議、検討並びに推進
(備考)			

設置者の理事(役員)名簿

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

常勤・非常勤の別	前職又は現職	氏名	住所	備考
1 常勤	理事長	岡田 浩明	岡山県岡山市	
2 常勤	校長	木村 健司	岡山県岡山市	
3 非常勤	理容組合 理事長	中原 一郎	岡山県岡山市	学外者
4 非常勤	理容組合 副理事長	太田 佳徳	岡山県岡山市	学外者
5 非常勤	理容組合 副理事長	坂本 勝史	岡山県瀬戸内市	学外者
6 非常勤	美容組合 理事長	中嶋 實人	岡山県岡山市	学外者
7 非常勤	美容組合 副理事長	杉 茂典	岡山県岡山市	学外者
8 非常勤	美容組合 副理事長	那須 繁一	岡山県岡山市	学外者
9 非常勤	元県職員	神田 益穂	岡山県久米郡	学外者
10 非常勤	元県職員	古南 篤子	岡山県岡山市	学外者
11 非常勤	理容組合 教育部長	合六 秀樹	岡山県岡山市	学外者
12 非常勤	美容組合 教育部長	清水 善光	岡山県岡山市	学外者
(備考)				

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

理容美容専門課程において授業計画書を作成している。

授業計画は理容師・美容師国家試験合格基準を到達目標とし、必要に応じて教育課程編成委員会等において協議している。

授業は授業計画書に沿って1単位時間50分を標準とし、教科課目の特質（学科・実技・演習等）に応じて実施する。

指導計画書は、前年度末に作成し年度はじめにおいて学生に明示すると共に、本校において閲覧可能とする。

授業計画書の公表方法 <https://www.oka-kenribi.ac.jp>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

入学後に学生に対し担任面談をおこない、学校生活の充実度や学習意欲を把握確認している。

また、年間を通して定期試験を行い、随時授業の学習成果を厳正かつ適正にはかつており、優（100点～90点）、良（89点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～）と評価している。学年を通じて可以上の評価を得た学生には当該課目において単位を与えるものである。

また、不可になった学生に対しては追試、再試またはレポート作成をさせるなどで単位を認定している。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

[指標の算出方法]

理容科、美容科美容コース、美容科トータルビューティーコースのそれぞれにおいて年間を通して定期試験等で採点をおこない、全履修課目の合計得点をもって各学生の成績として順位づけをおこない、成績の分布状況を把握する。

[客観的指標の適切な実施状況]

前期・後期毎に、各コースの総学生数から退学・休学の学生数をのぞいた学生数を4で除して整数として完全に下位1/4に当たる学生を警告の対象とする。

また、①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。

また、以上の成績評価の指標を本校にて自由閲覧とする。

*本試験をもって成績分布を把握するものであり、進級・卒業の為におこなう再試験の結果は成績分布に反映させない。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	本校にて閲覧可能
----------------------	----------

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

理容師法養成施設指定規則、美容師法養成施設指定規則に定められた教科課目および単位数に対し、数値化した成績考査（定期試験等）を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。

また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数（学科では1/3、実習を伴う課目1/5）以内となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	本校にて閲覧可能
----------------------	----------

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp
収支計算書又は損益計算書	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp
財産目録	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp
事業報告書	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp
監事による監査報告（書）	本校 HP https://www.oka-kenribi.ac.jp

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
衛生		理容美容専門課程	理容科	○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		開設している授業の種類	
		講義	演習	実習	実技
2年	昼	67 単位時間／単位	単位時間 22/単位	単位時間 2/単位	単位時間 30/単位
					単位時間 0/単位
					13/単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数
80人	35人	0人		4人	22人
					26人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

(概要)

授業の1単位時間は50分を標準とし、教科課目の特質に応じて、授業の形態内容（学科・実技等）に合わせて実施している。

理容師国家試験合格基準を到達目標とし、必要に応じて教育課程編成委員会等において協議した上で授業計画を作成している。

指導計画書は、年度はじめにおいて学生に明示すると共に、隨時本校において閲覧可能とする。

成績評価の基準・方法

(概要)

年間を通して定期試験をおこない、全履修課目での総得点をもって学生個人の成績として順位を出し、成績の分布状況を把握している。

また、①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。

以上の成績評価の指標を本校にて自由閲覧とする。

入学後に学生に対し担任面談をおこない、学校生活の充実度や学習意欲を把握確認して

いる。
年間を通して定期試験を行い、随時授業の学習成果を厳正かつ適正にはかっており、優(100点～90点)、良(89点～70点)、可(69点～60点)不可(59点～)と評価している。学年を通じて可以上の評価を得た学生には当該課目において単位を与えるものである。
また、不可になった学生に対しては追試、再試またはレポート作成をさせるなどで単位を認定している。

卒業・進級の認定基準

(概要)

理容師養成施設指定規則に定められた教科課目および単位数に対し、数値化した成績考査(定期試験等)を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。

また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数(学科では1/3、実習を伴う課目1/5)以内となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。
隨時、本校において本書を閲覧可能としている。

学修支援等

(概要)

入学後、随時学生に対して担任面談をおこない、学生生活の充実度や学習意欲を確認している。また学習効果を上げる為、必要に応じて学校関係者評議委員会、教育課程編成委員会において協議確認しながら学校運営につなげている。

隨時、本校において本書を閲覧可能としている。

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.7%)	1人 (8.3%)

(主な就職、業界等)

理容所、理容業全般

(就職指導内容)

進級前後に就職ガイダンスを実施し、随時個々の学生に履歴書作成・面接の指導等を行っている。

(主な学修成果(資格・検定等))

理容師免許・専門士・JNEC ネイリスト技能検定3級・SBS 接遇マナー検定3級

(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	4人	12.9%

(中途退学の主な理由)

一身上の都合、進路変更

(中退防止・中退者支援のための取組)
担任面談や三者面談を行い、退学希望者へは休学や通信課程への転入を促している

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士
衛生		理容美容専門課程	美容科 美容コース		○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	67 単位時間／単位		単位時間 22/単位	単位時間 2/単位	単位時間 30/単位
				単位時間 0/単位	単位時間 13/単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
280人		264人	0人	10人	14人	24人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業の1単位時間は50分を標準とし、教科課目の特質に応じて、授業の形態内容（学科・実技等）に合わせて実施している。美容師国家試験合格基準を到達目標とし、必要に応じて教育課程編成委員会等において協議した上で授業計画を作成している。指導計画書は、年度はじめにおいて学生に明示すると共に、隨時本校において閲覧可能とする。

成績評価の基準・方法

（概要）

年間を通して定期試験をおこない、全履修課目での総得点をもって学生個人の成績として順位を出し、成績の分布状況を把握している。

また、①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。

以上の成績評価の指標を本校にて自由閲覧とする。

入学後に学生に対し担任面談をおこない、学校生活の充実度や学習意欲を把握確認している。

年間を通して定期試験を行い、隨時授業の学習成果を厳正かつ適正にはかっており、優（100点～90点）、良（89点～70点）、可（69点～60点）不可（59点～）と評価している。学年を通じて可以上の評価を得た学生には当該課目において単位を与えるものである。

また、不可になった学生に対しては追試、再試またはレポート作成をさせるなどで単位を認定している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

美容師養成施設指定規則に定められた教科課目および単位数に対し、数値化した成績考査（定期試験等）を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。

また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数（学科では1/3、実習を伴う課目1/5）以内となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。隨時、本校において本書を閲覧可能としている。

学修支援等

(概要)

入学後、随時学生に対して担任面談をおこない、学生生活の充実度や学習意欲を確認している。また学習効果を上げる為、必要に応じて学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会において協議確認しながら学校運営につなげている。

随時、本校において本書を閲覧可能としている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
112人 (100%)	0人 (0%)	109人 (97.3%)	3人 (2.7%)
(主な就職、業界等)			
美容所、美容業全般			
(就職指導内容)			
進級前後に就職ガイダンスを実施し、随時個々の学生に履歴書作成・面接の指導等を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
美容師免許・専門士・JNEC ネイリスト技能検定3級・SBS 接遇マナー検定3級 SBS メイクデュアルクター2級・SBS エステティックデュアルクター2級・SBS 着付デュアルクター2級/1級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
253人	9人	3. 6%
(中途退学の主な理由)		
一身上の都合、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
担任面談や三者面談を行い、退学希望者へは休学や通信課程への転入を促している		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
衛生	理容美容専門課程	美容科 トータルビューティーコース	○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類	
2年	昼	67 単位時間／単位	講義	演習
			実習	実験
			実技	
			単位時間 21/単位	単位時間 2/単位
			単位時間 30/単位	単位時間 0/単位
			単位時間 14/単位	
			67 単位時間／単位	

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
280人	264人	0人	10人	14人	24人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 授業の1単位時間は50分を標準とし、教科課目の特質に応じて、授業の形態内容（学科・実技等）に合わせて実施している。 美容師国家試験合格基準を到達目標とし、必要に応じて教育課程編成委員会等において協議した上で授業計画を作成している。 指導計画書は、年度はじめにおいて学生に明示すると共に、隨時本校において閲覧可能とする。
成績評価の基準・方法
(概要) 年間を通して定期試験をおこない、全履修課目での総得点をもって学生個人の成績として順位を出し、成績の分布状況を把握している。 また、①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。 以上の成績評価の指標を本校にて自由閲覧とする。 入学後に学生に対し担任面談をおこない、学校生活の充実度や学習意欲を把握確認している。 年間を通して定期試験を行い、隨時授業の学習成果を厳正かつ適正にはかっており、優（100点～90点）、良（89点～70点）、可（69点～60点）不可（59点～）と評価している。学年を通じて可以上の評価を得た学生には当該課目において単位を与えるものである。 また、不可になった学生に対しては追試、再試またはレポート作成をさせるなどで単位を認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 美容師養成施設指定規則に定められた教科課目および単位数に対し、数値化した成績考査（定期試験等）を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。 また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数（学科では1／3、実習を伴う課目1／5）以内となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。 隨時、本校において本書を閲覧可能としている。
学修支援等
(概要) 入学後、隨時学生に対して担任面談をおこない、学生生活の充実度や学習意欲を確認している。また学習効果を上げる為、必要に応じて学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会において協議確認しながら学校運営につなげている。 隨時、本校において本書を閲覧可能としている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
112人 (100%)	0人 (0%)	109人 (97.3%)	3人 (2.7%)
(主な就職、業界等) 美容所、美容業全般			
(就職指導内容) 進級前後に就職ガイダンスを実施し、随時個々の学生に履歴書作成・面接の指導等を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 美容師免許・専門士・JNECネイリスト技能検定3級・SBS接遇マナー検定3級 SBSメイクデュアルクター2級・SBSエステティックタタクター2級/1級・SBS・SBS着付デュアルクター2級/1級 JNAショルネイル技能検定初級・パーソナルカラリスト検定3級・メイク検定プロフェッショナル級(JMPA認定)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状					
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率			
253人	9人	3.6%			
(中途退学の主な理由) 一身上の都合、進路変更					
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任面談や三者面談を行い、退学希望者へは休学や通信課程への転入を促している					

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理容科	200,000円	360,000円	240,000円	その他内訳 …実習費 20,000円/月
美容科 美容コース	200,000円	360,000円	240,000円	その他内訳 …実習費 20,000円/月
美容科 トータルビューティー ^{コース}	200,000円	360,000円	240,000円	その他内訳 …実習費 20,000円/月
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.oka-kenribi.ac.jp/															
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）															
<ul style="list-style-type: none">「委員の定数」は、4～5名とする。「委員の選出区分」は、理美業界・関係業界・学校現場・保護者のステイクホルダーとの連携協議を基に学校づくりを推進していく。「学校自己評価」を前期と後期の終了時に実施する。「学生アンケート」を前期と後期の終了時に実施する。評価項目は、①教育理念・目的・人材育成像 ②学校運営 ③教育活動 ④学修成果 ⑤学生支援 ⑥教育環境 ⑦学生の受入れ募集 ⑧財務 ⑨法令等の遵守 ⑩社会貢献・地域貢献 ⑪国際交流（必要に応じて）とする。組織的・継続的な教育活動等の改善策を策定し教頭、教務主任の管理の元に実施する。															
学校関係者評価の委員															
<table border="1"><thead><tr><th>所属</th><th>任期</th><th>種別</th></tr></thead><tbody><tr><td>理美業界（同窓会）</td><td>2024年4月1日～ 2025年3月31日</td><td>卒業生</td></tr><tr><td>関係業界（理美商社）</td><td>2024年4月1日～ 2025年3月31日</td><td>役員</td></tr><tr><td>高等学校（学校現場）</td><td>2024年4月1日～ 2025年3月31日</td><td>学校長</td></tr><tr><td>保護者</td><td>2024年4月1日～ 2025年3月31日</td><td>保護者</td></tr></tbody></table>	所属	任期	種別	理美業界（同窓会）	2024年4月1日～ 2025年3月31日	卒業生	関係業界（理美商社）	2024年4月1日～ 2025年3月31日	役員	高等学校（学校現場）	2024年4月1日～ 2025年3月31日	学校長	保護者	2024年4月1日～ 2025年3月31日	保護者
所属	任期	種別													
理美業界（同窓会）	2024年4月1日～ 2025年3月31日	卒業生													
関係業界（理美商社）	2024年4月1日～ 2025年3月31日	役員													
高等学校（学校現場）	2024年4月1日～ 2025年3月31日	学校長													
保護者	2024年4月1日～ 2025年3月31日	保護者													
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.oka-kenribi.ac.jp/															
第三者による学校評価（任意記載事項）															

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.oka-kenribi.ac.jp/
--

授業計画書

(令和 6 年 4 月 1 日施行)

岡山県理容美容専門学校

教科課程履修における実施概要

1、成績評価の基準

年間を通して定期試験等を行い、隨時学習成果を厳正かつ適正にはかる。

年度を半期毎に分けて前期（4—9月）、後期（10—3月）とし定期試験において取得した得点によって、次のように評価する。

また、一部課目においては提出物、又は到達目標となる検定等の合否を基に判定を行うものとする。

優	…	100点～90点
良	…	89点～70点
可	…	69点～60点
不可	…	59点～0点

2、再試験の対象基準

各課目において59点以下の場合、及第を目的として再試験を実施する。

3、補講授業の対象基準

教科課目ごとに、欠席が出席すべき教科課目の時間数の3分の1（実習を伴う教科課目にあっては5分の1）を超える者については、卒業を認めないことから、その対象者にはこれを補い履修、卒業を認めるために、十分な補講等を行うこととする。

授業計画書

理容美容専門課程

【 昼 間 課 程 】

岡山県理容美容専門学校

理容科

別表1の1

理容美容専門課程(昼間課程) 理容科							
課目区分	教科課目	第1学年 年間 単位数	第2学年 年間 単位数	法定単位数 合計	第1学年 年間 授業時間数	第2学年 年間 授業時間数	法定 授業時間数 合計
必修課目	関係法規・制度	1		1	30		30
	衛生管理	2	1	3	60	30	90
	保健	2	1	3	60	30	90
	香粧品化学	1	1	2	30	30	60
	文化論	1	1	2	30	30	60
	運営管理	1		1	30		30
	理容技術理論	2	3	5	60	90	150
	理容実習	13	17	30	390	510	900
必修課目法定単位数・授業時間数小計		23	24	47	690	720	1,410
選択課目	ビジネス教養	1		1	30		30
	デッサン	1		1	30		30
	ライセンスセミナー		2	2		60	60
	カウンセリング	1		1	30		30
	毛髪科学		1	1		30	30
	商品知識		1	1		30	30
専門課目	理容総合技術	8	5	13	240	150	390
コース別選択課目法定単位数・授業時間数 小計		11	9	20	330	270	600
コース別法定単位数・授業時間数 合計		34	33	67	1,020	990	2,010

関係法規・制度

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	西澤 幸司 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容に関する衛生法規と理容師法・美容師法についての正しい知識を学ぶ。理容・美容の業務と保健所の関係を理解させ、理容所・美容所衛生措置ならびに理容師美容師の業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 法制度の概要	9	9
第2章 衛生行政の概要	6	15
第3章 理容師法・美容師法	12	27
第4章 関連法規	3	30

衛生管理

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	岡 正恒 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、公衆衛生・環境衛生と業務的関連、衛生措置、注意すべき感染症、消毒の意義と具体的な消毒法を学ぶ。理容所・美容所の衛生措置ならびに理容師美容師としてなすべき業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 公衆衛生		
第1章 公衆衛生の概要	7	
第2章 保健	8	15
第2編 環境衛生		
第1章 環境衛生	15	30
第3編 感染症		
第1章 感染症の総論	15	
第2章 感染症の各論	15	60
第4編 衛生管理技術		
第1章 消毒法総論	10	
第2章 消毒法各論	10	
第3章 消毒法実習	5	85
第5編 衛生管理の実践例		
第1章 理容所及び美容所における衛生管理要領	3	
第2章 理・美容所の自主管理点検表	2	90

保 健

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	嶋田 義弘 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、安全で効果的な施術を行うために必要な人体、皮膚、毛髪等の組織構造と生理機能を学ぶ。特に施術においては重要な頭部及び皮膚、毛髪について理論的理解を深め、理容所・美容所において的確な施術に繋がるよう習得する。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 人体の構造および機能		
第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	3	
第2章 骨格器系	5	
第3章 筋系	8	
第4章 神経系	6	
第5章 感覚器系	12	
第6章 血液・循環器系	10	
第7章 呼吸器系	8	
第8章 消化器系	8	60
第2編 皮膚科学		
第1章 皮膚の構造	4	
第2章 皮膚付属器官の構造	3	
第3章 皮膚の循環系と神経系	2	
第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	6	
第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	6	
第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	9	90

香粧品化学

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	阿部 泰之 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において必要な香粧品の種類や使用目的、成分について学ぶ。業務を行なうに当たって科学的な知識を習得する。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 香粧品概論	4	4
第2章 香粧品用原料	19	23
第3章 基礎香粧品	7	30
第4章 メイクアップ用香粧品	7	37
第5章 頭皮・毛髪用香粧品	16	53
第6章 芳香製品と特殊香粧品	5	58
香粧品化学を理解するための基礎化学	2	60

文化論

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	田中 勉 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	ファッションと服飾の変遷、造形や色彩の原理とその心理的関わりを学ぶ。理容・美容業務を行なう上で、よりすぐれた人間美の創造が最終的な目標であり、その実現のため洗練された美的感覚と豊かな感性および確かな技術力は欠かせない。この素養を養うことを習得目的とする。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 総論	2	2
第2章 日本の理容業・美容業の歴史	3	5
第3章 ファッション文化史 日本編	25	30
第4章 ファッション文化史 西洋編	27	57
第5章 札装の種類	3	60

運営管理

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	将来において理容所・美容所を経営する際の科学的な経営管理の方法と、適切な接客について学ぶ。健全な理容業・美容業の経営に役立て、またサービス業において接客業務がいかに重要かを認識させ、消費者対応の基本と実践を身につけさせる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 経営者の視点		
第1章 経営とは・経営者とは	2	
第2章 理容業・美容業の経営について	4	
第3章 資金の管理	4	10
第2編 人という資源 従業員としての視点		
第1章 人という資源	2	
第2章 従業員としての視点から	4	
第3章 健康・安全な職場環境の実現	4	20
第3編 顧客のために		
第1章 サービス・デザイン	2	
第2章 サービス・マーケティング	4	
第3章 サービスにおける人の役割	4	30

理容技術理論

単位数	5単位	時間数	150時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	理容科教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:理容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容器具類においては適切な操作、衛生的管理方法を学ぶ。理容技術においては衛生的且つ能率的技術を行なうための理論を学ぶ。理論的根拠を明らかにし、施術につなげるられるよう習得する。		
到達目標	理容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
序章 理容技術理論を学ぶにあたって	2	2
1章 理容技術の基礎	10	12
2章 理容用具	12	24
3章 ヘアデザイン	12	36
4章 ヘアカッティング	12	48
5章 ヘアセッティング	12	60
6章 パーマネントセット	10	70
7章 ヘアカラーリング	10	80
8章 シェーピング	10	90
9章 理容エステティック	10	100
10章 理容クリニック	10	110
11章 シャンプーイング&リンシング	10	120
12章 理容マッサージ	10	130
13章 ヘアトリートメント	10	140
14章 スキャルプトリートメント	10	150

理容実習

単位数	30単位	時間数	900時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	理容科教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:理容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	顧客の要望に応じた技術提供ができるよう、基本的技術を総合的に学ぶ。理容業務を効果的に実施できるよう技術を習得させる。器具の消毒などの衛生管理を同時にを行い、安全のもとで提供できるようにする。		
到達目標	理容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 スタンダードヘア	260	260
第2章 デザインヘア	70	330
第3章 ヘアセッティング	70	400
第4章 パーマネントウェービング	100	500
第5章 アイアニング	70	570
第6章 ヘアカラーリング	40	610
第7章 シェービング	110	720
第8章 ハンドケア	10	730
第9章 フットケア	10	740
第10章 ヘアクリニック	50	790
第11章 シャンプーイング＆リンシング	70	860
第12章 ヘッドマッサージ	20	880
第13章 クリニックマッサージ	20	900

ビジネス教養

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	常勤教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書「ビジネスマナー」を基にSNS関連、新聞、ニュースなど各種情報		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】【検定結果】等による評価	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容業界でのビジネスマナー、接客において必要となる一般常識や社会情勢などの教養を幅広く身につける。		
到達目標	身の回りの情報を理解し、自身の見解や判断を持って行動できる社会性を保持することを目指す。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 社会人としての基本	6	6
第2章 正しい動作	3	9
第3章 言葉遣い	3	12
第4章 接客の基本（新常識）	5	17
第5章 電話応対の基礎	3	20
第6章 一般常識・各種マナー	8	28
第7章 履歴書の書き方	2	30

デッサン

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書に基づく資料		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	作画及び取組み状況	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容における造形の意義と応用について学ぶ。デッサンの基礎からヘアデザイン画まで学ぶ。人体および頭部の造形バランスを把握し、それが心理面に及ぼす効果を学習し描き方の基本から、実際のデッサン技法を理解する。		
到達目標	理容所・美容所において、顧客に対しヘアデザインの提供ができるよう実践的にイメージ創作をおこなうことに到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
鉛筆の使い方	2	2
人体のプロポーション	4	6
顔の部分練習	4	10
顔の描き方	4	14
角度の変化による顔形	4	18
ヘアの描き方	4	22
ヘアスタイルによるイメージの違い	4	26
同じ顔でイメージを変える	4	30

ライセンスセミナー

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	2年	担当教員名	常勤教員他
教科書	教育センター発行 ワークブックおよび国家試験過去問題		
授業の方法	演習	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	演習の得点による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	関係法規・制度、衛生管理、保健、香粧品化学、文化論、運営管理、技術理論の過去問題を集中的に解かせ、視聴覚機材を有効に活用し、理解を深めさせる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の総仕上げとし、理容師美容師国家試験に対する合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
関係法規・制度	4	4
運営管理	4	8
衛生管理		
・公衆衛生・環境衛生	6	
・感染症	6	
・衛生管理技術	6	26
保健		
・人体の構造および保健	6	
・皮膚科学	6	38
香粧品化学	12	50
文化論	4	54
技術理論	6	60

カウンセリング

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、カウンセリングの基礎からコンサルティング、身体的条件、社会的地位、体調、嗜好などに合わせ相手の話を聴取分析し、顧客に提案する技術を学ぶ。		
到達目標	求められるサービスを専門的な視点から具体的に提案し、安心満足を与えられる知識の習得に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 カウンセリング概論	10	10
第2章 毛髪・皮膚コンサルティング	20	30

毛髪科学

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	2年	担当教員名	常勤教員 他
教科書	ヘアケアマイスターBOOK		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:理美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、健康な頭皮、頭髪を保つための知識や施術を学ぶ。頭皮、頭毛に関する器官の名称とその機能を理解する。		
到達目標	顧客に対し、実践的に毛髪の生理機能に関して的確なアドバイスとそれに伴う具体的で必要な指導、施術をできることに到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 毛髪科学編	5	5
第2章 毛髪のカウンセリング編	3	8
第3章 ヘアケア剤編	4	12
第4章 皮膚科学編	3	15
第5章 スキャルプケア編	5	20
第6章 ヘアカラー剤編	5	25
第7章 パーマ剤編	5	30

商品知識

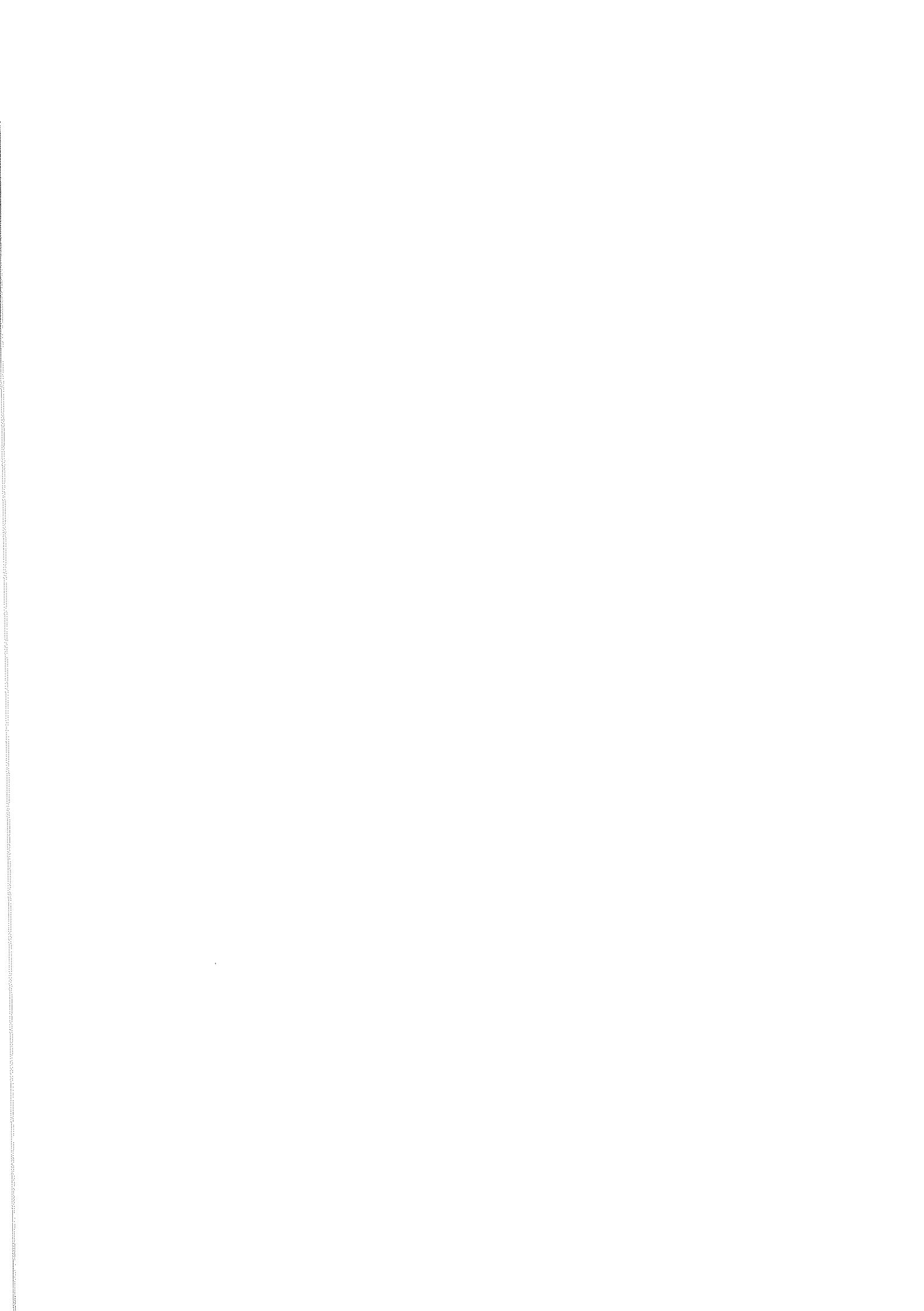
単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	2年	担当教員名	常勤教員 他
教科書	日本毛髪科学協会書へアサイエンスに基づく教材		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	担任 他
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、『毛髪科学・理容実践』・『毛髪科学・美容実践』で得た知識や施術がシャンプー剤やトリートメント剤、パーマ液などの香粧品とどのように関連していくのかを学ぶ。		
到達目標	理容所・美容所において使用されるカラー剤、パーマ液などの薬剤に対する毛髪反応を理解し、香粧品の正しい知識の習得に到達する		

授業計画	時間数	累積時間数
毛髪の発生のメカニズム	2	2
毛髪の生理機能	3	5
毛髪の構造と組成	5	10
毛髪の性質(シャンプー・トリートメントの効用)	4	14
パーマネントウェーブ理論(応用)	8	22
カラーリング理論(応用)	8	30

理容総合技術

単位数	13単位	時間数	390時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	理容科教員 他
教科書	独自教材		
授業の方法	実技	実務経験有する教員配置	有り:理容師として
成績評価の方法	技術理解習熟度による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	頭部、顔面、特殊技術を組み合わせて調和のとれた理容技術を完成させるために総合的技術を学ぶ。理論・実習・その他の課目において学習した内容は、それぞれが相互に関係して現場で体現されるべきものである。そのために、作品をデザインし、創作することにより、学習した内容を統合的に考えさせる。		
到達目標	また、その過程において自身の理解度、技術習得度も省み、理容技術の総合的理解に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
トレーニング①	15	15
接客技術①	15	30
カラーリング①	30	60
セッティング応用①	30	90
トレーニング②	15	105
接客技術②	7	112
カラーリング②	30	142
パーマネントウェーブ応用①	15	157
マッサージ	30	187
エステティック	30	217
セッティング応用②	30	247
パーマネントウェーブ応用②	15	262
ヘアカッティング応用	60	322
スタイリング	60	382
ネイル	8	390



美 容 科

別表1の2

理容美容専門課程(昼間課程) 美容科

課目区分	教科課目	第1学年 年間 単位数	第2学年 年間 単位数	法定単位数 合計	第1学年 年間 授業時間数	第2学年 年間 授業時間数	法定 授業時間数 合計
必修課目	関係法規・制度	1		1	30		30
	衛生管理	2	1	3	60	30	90
	保健	2	1	3	60	30	90
	香粧品化学	1	1	2	30	30	60
	文化論	1	1	2	30	30	60
	運営管理	1		1	30		30
	美容技術理論	2	3	5	60	90	150
	美容実習	13	17	30	390	510	900
必修課目法定単位数・授業時間数小計		23	24	47	690	720	1,410
選択課目	共 ビジネス教養	1		1	30		30
	共 デッサン	1		1	30		30
	共 ライセンスセミナー		2	2		60	60
	A カウンセリング	1		1	30		30
	A 毛髪科学		1	1		30	30
	A 商品知識		1	1		30	30
	B カラーコーディネイト		1	1		30	30
	B ブライダル		1	1		30	30
	A 美容総合技術	8	5	13	240	150	390
	B メイクアップ	4	1	5	120	30	150
専門課目	B ネイル	3	2	5	90	60	150
	B エステティック	1	1	2	30	30	60
	B 着付	1	1	2	30	30	60
	コース別選択課目法定単位数・授業時間数 小計	11	9	20	330	270	600
コース別法定単位数・授業時間数 合計		34	33	67	1,020	990	2,010

[共] ... 共通(美容科向け)

[A] ... A類(美容コース向け)

[B] ... B類(トータルビューティーコース向け)

* [美容コース] は必修課目47単位と選択課目20単位([共][A])を履修すること。

* [トータルビューティーコース] は必修課目47単位と選択課目20単位([共][B])を履修すること。

美容科

美容コース

関係法規・制度

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	西澤 幸司 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容に関する衛生法規と理容師法・美容師法についての正しい知識を学ぶ。理容・美容の業務と保健所の関係を理解させ、理容所・美容所衛生措置ならびに理容師美容師の業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 法制度の概要	9	9
第2章 衛生行政の概要	6	15
第3章 理容師法・美容師法	12	27
第4章 関連法規	3	30

衛生管理

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	寺尾 友寿 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、公衆衛生・環境衛生と業務的関連、衛生措置、注意すべき感染症、消毒の意義と具体的な消毒法を学ぶ。理容所・美容所の衛生措置ならびに理容師美容師としてなすべき業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の中の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 公衆衛生		
第1章 公衆衛生の概要	7	
第2章 保健	8	15
第2編 環境衛生		
第1章 環境衛生	15	30
第3編 感染症		
第1章 感染症の総論	15	
第2章 感染症の各論	15	60
第4編 衛生管理技術		
第1章 消毒法総論	10	
第2章 消毒法各論	10	
第3章 消毒法実習	5	85
第5編 衛生管理の実践例		
第1章 理容所及び美容所における衛生管理要領	3	
第2章 理・美容所の自主管理点検表	2	90

保 健

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	石原 綾騎 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講 義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、安全で効果的な施術を行うために必要な人体、皮膚、毛髪等の組織構造と生理機能を学ぶ。特に施術においては重要な頭部及び皮膚、毛髪について理論的理解を深め、理容所・美容所において的確な施術に繋がるよう習得する。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 人体の構造および機能		
第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	3	
第2章 骨格器系	5	
第3章 筋系	8	
第4章 神経系	6	
第5章 感覚器系	12	
第6章 血液・循環器系	10	
第7章 呼吸器系	8	
第8章 消化器系	8	60
第2編 皮膚科学		
第1章 皮膚の構造	4	
第2章 皮膚付属器官の構造	3	
第3章 皮膚の循環系と神経系	2	
第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	6	
第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	6	
第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	9	90

香粧品化学

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	中嶋 彩乃 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において必要な香粧品の種類や使用目的、成分について学ぶ。業務を行なうに当たって科学的な知識を習得する。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 香粧品概論	4	4
第2章 香粧品用原料	19	23
第3章 基礎香粧品	7	30
第4章 メイクアップ用香粧品	7	37
第5章 頭皮・毛髪用香粧品	16	53
第6章 芳香製品と特殊香粧品	5	58
香粧品化学を理解するための基礎化学	2	60

文化論

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	遠山 敦子 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	ファッションと服飾の変遷、造形や色彩の原理とその心理的関わりを学ぶ。理容・美容業務を行なう上で、よりすぐれた人間美の創造が最終的な目標であり、その実現のため洗練された美的感覚と豊かな感性および確かな技術力は欠かせない。この素養を養うことを習得目的とする。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の中の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 総論	2	2
第2章 日本の理容業・美容業の歴史	3	5
第3章 ファッション文化史 日本編	25	30
第4章 ファッション文化史 西洋編	27	57
第5章 礼装の種類	3	60

運営管理

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	将来において理容所・美容所を経営する際の科学的な経営管理の方法と、適切な接客について学ぶ。健全な理容業・美容業の経営に役立て、またサービス業において接客業務がいかに重要かを認識させ、消費者対応の基本と実践を身につけさせる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 経営者の視点		
第1章 経営とは・経営者とは	2	
第2章 理容業・美容業の経営について	4	
第3章 資金の管理	4	10
第2編 人という資源 従業員としての視点		
第1章 人という資源	2	
第2章 従業員としての視点から	4	
第3章 健康・安全な職場環境の実現	4	20
第3編 顧客のために		
第1章 サービス・デザイン	2	
第2章 サービス・マーケティング	4	
第3章 サービスにおける人の役割	4	30

美容技術理論

単位数	5単位	時間数	150時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	美容器具類においては適切な操作、衛生的管理方法を学ぶ。美容技術においては衛生的且つ能率的技術を行なうための理論を学ぶ。理論的根拠を明らかにし、施術につなげるられるよう習得する。		
到達目標	美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
序章 美容技術理論を学ぶにあたって	2	2
1章 美容用具	12	14
2章 シャンプーイング	14	28
3章 ヘアデザイン	12	40
4章 ヘアカッティング	12	52
5章 パーマネントウェーピング	12	64
6章 ヘアセッティング	14	78
7章 ヘアカラーリング	12	90
8章 エステティック	12	102
9章 ネイル技術	12	114
10章 メイクアップ	12	126
11章 日本髪	12	138
12章 着付けの理論と技術	12	150

美容実習

単位数	30単位	時間数	900時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	顧客の要望に応じた技術提供ができるよう、基本的技術を総合的に学ぶ。美容業務を効果的に実施できるよう技術を習得させる。器具の消毒などの衛生管理を同時にを行い、安全のもとで提供できるようにする。		
到達目標	美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 シャンプーイング	120	120
第2章 ヘアカッティング	160	280
第3章 パーマネントウェービング	160	440
第4章 ヘアセッティング	160	600
第5章 ヘアカラーリング	60	660
第6章 エステティック	60	720
第7章 ネイル技術	60	780
第8章 メイクアップ	60	840
第9章 着付け技術	60	900

ビジネス教養

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	常勤教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書「ビジネスマナー」を基にSNS関連、新聞、ニュースなど各種情報		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】【検定結果】等による評価	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容業界でのビジネスマナー、接客において必要となる一般常識や社会情勢などの教養を幅広く身につける。		
到達目標	身の回りの情報を理解し、自身の見解や判断を持って行動できる社会性を保持することを目指す。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 社会人としての基本	6	6
第2章 正しい動作	3	9
第3章 言葉遣い	3	12
第4章 接客の基本（新常識）	5	17
第5章 電話応対の基礎	3	20
第6章 一般常識・各種マナー	8	28
第7章 履歴書の書き方	2	30

デッサン

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書に基づく資料		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	作画及び取組み状況	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容における造形の意義と応用について学ぶ。デッサンの基礎からヘアデザイン画まで学ぶ。人体および頭部の造形バランスを把握し、それが心理面に及ぼす効果を学習し描き方の基本から、実際のデッサン技法を理解する。		
到達目標	理容所・美容所において、顧客に対しヘアデザインの提供ができるよう実践的にイメージ創作をおこなうことに到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
鉛筆の使い方	2	2
人体のプロポーション	4	6
顔の部分練習	4	10
顔の描き方	4	14
角度の変化による顔形	4	18
ヘアの描き方	4	22
ヘアスタイルによるイメージの違い	4	26
同じ顔でイメージを変える	4	30

ライセンスセミナー

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	2年	担当教員名	常勤教員他
教科書	教育センター発行 ワークブックおよび国家試験過去問題		
授業の方法	演習	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	演習の得点による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	関係法規・制度、衛生管理、保健、香粧品化学、文化論、運営管理、技術理論の過去問題を集中的に解かせ、視聴覚機材を有効に活用し、理解を深めさせる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の総仕上げとし、理容師美容師国家試験に対する合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
関係法規・制度	4	4
運営管理	4	8
衛生管理		
・公衆衛生・環境衛生	6	
・感染症	6	
・衛生管理技術	6	26
保健		
・人体の構造および保健	6	
・皮膚科学	6	38
香粧品化学	12	50
文化論	4	54
技術理論	6	60

カウンセリング

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、カウンセリングの基礎からコンサルティング、身体的条件、社会的地位、体調、嗜好などに合わせ相手の話を聴取分析し、顧客に提案する技術を学ぶ。		
到達目標	求められるサービスを専門的な視点から具体的に提案し、安心満足を与えられる知識の習得に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 カウンセリング概論	10	10
第2章 毛髪・皮膚コンサルティング	20	30

毛髪科学

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	2年	担当教員名	常勤教員 他
教科書	ヘアケアマイスター ブック		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:理美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、健康な頭皮、頭髪を保つための知識や施術を学ぶ。頭皮、頭毛に関する器官の名称とその機能を理解する。		
到達目標	顧客に対し、実践的に毛髪の生理機能に関して的確なアドバイスとそれに伴う具体的で必要な指導、施術をできることに到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 毛髪科学編	5	5
第2章 毛髪のカウンセリング編	3	8
第3章 ヘアケア剤編	4	12
第4章 皮膚科学編	3	15
第5章 スキャルプケア編	5	20
第6章 ヘアカラー剤編	5	25
第7章 パーマ剤編	5	30

商品知識

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	2年	担当教員名	常勤教員他
教科書	日本毛髪科学協会書へアサイエンスに基づく教材		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	担任他
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、『毛髪科学・理容実践』・『毛髪科学・美容実践』で得た知識や施術がシャンプー剤やトリートメント剤、パーマ液などの香粧品とどのように関連していくのかを学ぶ。		
到達目標	理容所・美容所において使用されるカラー剤、パーマ液などの薬剤に対する毛髪反応を理解し、香粧品の正しい知識の習得に到達する		

授業計画	時間数	累積時間数
毛髪の発生のメカニズム	2	2
毛髪の生理機能	3	5
毛髪の構造と組成	5	10
毛髪の性質(シャンプー・トリートメントの効用)	4	14
パーマネントウェーブ理論(応用)	8	22
カラーリング理論(応用)	8	30

美容総合技術

単位数	13単位	時間数	390時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
教科書	独自教材		
授業の方法	実技	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	技術理解習熟度による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	頭部、顔面、特殊技術を組み合わせて調和のとれた理容技術を完成させるために総合的技術を学ぶ。理論・実習・その他の課目において学習した内容は、それぞれが相互に関係して現場で体現されるべきものである。そのために、作品をデザインし、創作することにより、学習した内容を統合的に考えさせる。		
到達目標	また、その過程において自身の理解度、技術習得度も省み、理容技術の総合的理解に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
スタイリング	50	50
メイク	30	80
ネイル	30	110
着付け	30	140
エステティック	30	170
サロンワーク	30	200
カット基礎	95	295
カラーリング	95	390

美 容 科

トータルビューティーコース

関係法規・制度

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	西澤 幸司 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容に関する衛生法規と理容師法・美容師法についての正しい知識を学ぶ。理容・美容の業務と保健所の関係を理解させ、理容所・美容所衛生措置ならびに理容師美容師の業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 法制度の概要	9	9
第2章 衛生行政の概要	6	15
第3章 理容師法・美容師法	12	27
第4章 関連法規	3	30

衛生管理

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	寺尾 友寿 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、公衆衛生・環境衛生と業務的関連、衛生措置、注意すべき感染症、消毒の意義と具体的な消毒法を学ぶ。理容所・美容所の衛生措置ならびに理容師美容師としてなすべき業務内容を社会的責務と倫理規範の観点から具体的に理解させる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 公衆衛生		
第1章 公衆衛生の概要	7	
第2章 保健	8	15
第2編 環境衛生		
第1章 環境衛生	15	30
第3編 感染症		
第1章 感染症の総論	15	
第2章 感染症の各論	15	60
第4編 衛生管理技術		
第1章 消毒法総論	10	
第2章 消毒法各論	10	
第3章 消毒法実習	5	85
第5編 衛生管理の実践例		
第1章 理容所及び美容所における衛生管理要領	3	
第2章 理・美容所の自主管理点検表	2	90

保 健

単位数	3単位	時間数	90時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	石原 綾騎 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において、安全で効果的な施術を行うために必要な人体、皮膚、毛髪等の組織構造と生理機能を学ぶ。特に施術においては重要な頭部及び皮膚、毛髪について理論的理解を深め、理容所・美容所において的確な施術に繋がるよう習得する。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の中の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 人体の構造および機能		
第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学	3	
第2章 骨格器系	5	
第3章 筋系	8	
第4章 神経系	6	
第5章 感覚器系	12	
第6章 血液・循環器系	10	
第7章 呼吸器系	8	
第8章 消化器系	8	60
第2編 皮膚科学		
第1章 皮膚の構造	4	
第2章 皮膚付属器官の構造	3	
第3章 皮膚の循環系と神経系	2	
第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	6	
第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	6	
第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	9	90

香粧品化学

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	中嶋 彩乃 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容所・美容所において必要な香粧品の種類や使用目的、成分について学ぶ。業務を行なうに当たって科学的な知識を習得する。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 香粧品概論	4	4
第2章 香粧品用原料	19	23
第3章 基礎香粧品	7	30
第4章 メイクアップ用香粧品	7	37
第5章 頭皮・毛髪用香粧品	16	53
第6章 芳香製品と特殊香粧品	5	58
香粧品化学を理解するための基礎化学	2	60

文化論

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	遠山 敦子 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	ファッションと服飾の変遷、造形や色彩の原理とその心理的関わりを学ぶ。理容・美容業務を行なう上で、よりすぐれた人間美の創造が最終的な目標であり、その実現のため洗練された美的感覚と豊かな感性および確かな技術力は欠かせない。この素養を養うことを習得目的とする。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の中の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 総論	2	2
第2章 日本の理容業・美容業の歴史	3	5
第3章 ファッション文化史 日本編	25	30
第4章 ファッション文化史 西洋編	27	57
第5章 札装の種類	3	60

運営管理

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	将来において理容所・美容所を経営する際の科学的な経営管理の方法と、適切な接客について学ぶ。健全な理容業・美容業の経営に役立て、またサービス業において接客業務がいかに重要かを認識させ、消費者対応の基本と実践を身につけさせる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、理容師美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1編 経営者の視点		
第1章 経営とは・経営者とは	2	
第2章 理容業・美容業の経営について	4	
第3章 資金の管理	4	10
第2編 人という資源 従業員としての視点		
第1章 人という資源	2	
第2章 従業員としての視点から	4	
第3章 健康・安全な職場環境の実現	4	20
第3編 顧客のために		
第1章 サービス・デザイン	2	
第2章 サービス・マーケティング	4	
第3章 サービスにおける人の役割	4	30

美容技術理論

単位数	5単位	時間数	150時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	美容器具類においては適切な操作、衛生的管理方法を学ぶ。美容技術においては衛生的且つ能率的技術を行なうための理論を学ぶ。理論的根拠を明らかにし、施術につなげるられるよう習得する。		
到達目標	美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
序章 美容技術理論を学ぶにあたって	2	2
1章 美容用具	12	14
2章 シャンプーイング	14	28
3章 ヘアデザイン	12	40
4章 ヘアカッティング	12	52
5章 パーマネントウェーピング	12	64
6章 ヘアセッティング	14	78
7章 ヘアカラーリング	12	90
8章 エステティック	12	102
9章 ネイル技術	12	114
10章 メイクアップ	12	126
11章 日本髪	12	138
12章 着付けの理論と技術	12	150

美容実習

単位数	30単位	時間数	900時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	美容科教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	顧客の要望に応じた技術提供ができるよう、基本的技術を総合的に学ぶ。美容業務を効果的に実施できるよう技術を習得させる。器具の消毒などの衛生管理を同時にを行い、安全のもとで提供できるようにする。		
到達目標	美容師養成施設における教科課目の内容の基準を順守し、美容師国家試験合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 シャンプーイング	120	120
第2章 ヘアカッティング	160	280
第3章 パーマネントウェービング	160	440
第4章 ヘアセッティング	160	600
第5章 ヘアカラーリング	60	660
第6章 エステティック	60	720
第7章 ネイル技術	60	780
第8章 メイクアップ	60	840
第9章 着付け技術	60	900

ビジネス教養

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	常勤教員 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書「ビジネスマナー」を基にSNS関連、新聞、ニュースなど各種情報		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】【検定結果】等による評価	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容業界でのビジネスマナー、接客において必要となる一般常識や社会情勢などの教養を幅広く身につける。		
到達目標	身の回りの情報を理解し、自身の見解や判断を持って行動できる社会性を保持することを目指す。		

授業計画	時間数	累積時間数
第1章 社会人としての基本	6	6
第2章 正しい動作	3	9
第3章 言葉遣い	3	12
第4章 接客の基本（新常識）	5	17
第5章 電話応対の基礎	3	20
第6章 一般常識・各種マナー	8	28
第7章 履歴書の書き方	2	30

デッサン

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	1年	担当教員名	北村 宣幸 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書に基づく資料		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	作画及び取組み状況	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	理容・美容における造形の意義と応用について学ぶ。デッサンの基礎からヘアデザイン画まで学ぶ。人体および頭部の造形バランスを把握し、それが心理面に及ぼす効果を学習し描き方の基本から、実際のデッサン技法を理解する。		
到達目標	理容所・美容所において、顧客に対しヘアデザインの提供ができるよう実践的にイメージ創作をおこなうことに到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
鉛筆の使い方	2	2
人体のプロポーション	4	6
顔の部分練習	4	10
顔の描き方	4	14
角度の変化による顔形	4	18
ヘアの描き方	4	22
ヘアスタイルによるイメージの違い	4	26
同じ顔でイメージを変える	4	30

ライセンスセミナー

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	2年	担当教員名	常勤教員他
教科書	教育センター発行 ワークブックおよび国家試験過去問題		
授業の方法	演習	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	演習の得点による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	関係法規・制度、衛生管理、保健、香粧品化学、文化論、運営管理、技術理論の過去問題を集中的に解かせ、視聴覚機材を有効に活用し、理解を深めさせる。		
到達目標	理容師美容師養成施設における教科課目の総仕上げとし、理容師美容師国家試験に対する合格基準に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
関係法規・制度	4	4
運営管理	4	8
衛生管理		
・公衆衛生・環境衛生	6	
・感染症	6	
・衛生管理技術	6	26
保健		
・人体の構造および保健	6	
・皮膚科学	6	38
香粧品化学	12	50
文化論	4	54
技術理論	6	60

カラーコーディネイト

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	2年	担当教員名	遠山 敏子 他
教科書	パーソナルカラリスト検定 3級公式テキスト		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	なし
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	美容、ファッション、ブライダルなどデザインの分野と色彩とは密接な関係であり、重要な役割を果たしている。美容師を目指す上で、肌や髪色の基礎を知り、色の性質と本質を理解しその人の魅力を最大限に引き出す。		
到達目標	「自分色」を的確に見出す力を養い、生活や仕事に取り入れる事ができる知識とセンスを習得することに到達する		

授業計画	時間数	累積時間数
1 色彩と文化	4	4
2 色彩理論 色の仕組みと表色系	3	
色の感情効果	3	
配色効果	3	13
3 ファッション概論	4	17
4 ブライダルと色彩	3	20
5 パーソナルカラー	6	26
6 検定演習	4	30

ブライダル

単位数	1単位	時間数	30時間以上
履修学年	2年	担当教員名	中嶋 彩乃 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	講義	実務経験有する教員配置	有り: 美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	ブライダルに関する総合的知識を身につける。衣装や小物の名称、結婚式に必要な基礎知識を学ぶ。かつらやウエディングドレスのフィッティング、ウエディングにふさわしいヘア、ブーケ・ブートニアなどの成り立ちと技術的理論を学ぶ。		
到達目標	美容総合技術の基本理解と、現状把握をし専門的知識に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
1 結婚式の様式	3	3
2 衣装・小物の名称	3	6
3 結婚の基礎知識	3	9
4 かつらの扱い方	4	13
5 ブライダルヘアの展示・実技	6	19
6 ブーケ・ブートニアの展示・実技	5	24
7 ドレスフィッティング・アクセサリーの取り扱い方	6	30

メイクアップ

単位数	5単位	時間数	150時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	遠山 敦子 他
教科書	YORK発行メイクアップマニュアル①、②		
授業の方法	実技	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	皮膚の構造や化粧品に関する知識を始め、メイクの基礎技術からサロンワークにおけるメイク技術を中心に接客を通したカウンセリング技術について習得する。さらに、ブライダル現場における仕事について、テクニックなど実践的な技術のなどデザイン性の高いメイクなどにも取り組み、技術力の向上を図る。		
到達目標	美容総合技術の基本理解と、現状把握による専門的知識に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
ベーシックメイクアップ 理論・実習	40	40
アドバンスマイク 理論・実習	40	80
デザイン① サロンメイクアップ	30	110
デザイン② ジャンル別デザインメイク・作品撮影	30	140
ブライダルメイク 和装・洋装	10	150

ネイル

単位数	5単位	時間数	150時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	桐山 久美子 他
教科書	JNAテクニカルシステムベーシック、JNAテクニカルシステム～ジェルネイル		
授業の方法	実技	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	ネイリストとしての知識、技術を習得しながら、日本ネイリスト検定試験センター主催のネイリスト技能検定試験3級、2級および日本ネイリスト協会主催のジェル技能検定試験初級取得を目的とする。		
到達目標	美容総合技術の基本理解と、現状把握をし専門的知識に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
ネイリスト技能検定試験3級内容	40	40
ジェル技能検定試験初級内容	30	70
3Dアート	4	74
プロダクトコントロール&チップ一オーバーレイ技術	8	82
ネイリスト技能検定試験2級内容	54	136
エンボスマート	4	140
スカルプチュア技術	10	150

エステティック

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	桐山久美子 他
教科書	SBSエステティック テキスト		
授業の方法	実技	実務経験有する教員配置	有り:美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	エステティックの一般知識を学び、エステを施術するための心構えや注意事項をしっかりと確認する。フェイシャルエステティックの基本的なハンドテクニックを正確に行うことができるよう繰り返し練習する。エステティック機器を使用しての施術と肌質にあつた粧材知識と選択方法を学び、SBSエステティックディレクター2級、1級取得を目的とする。		
到達目標	美容総合技術の基本理解と、現状把握をし専門的知識に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
エステティック概論	5	5
健康な皮膚の条件	5	10
エステティックマッサージ	5	15
美容機器概論と消毒	15	30
フェイシャルテクニック	10	40
タイムトライアル	10	50
エステ機器の使用	10	60

着付

単位数	2単位	時間数	60時間以上
履修学年	1・2年	担当教員名	中嶋 彩乃 他
教科書	日本理容美容教育センター発行教科書		
授業の方法	実技	実務経験有する教員配置	有り: 美容師として
成績評価の方法	【定期試験】結果による	成績評価の基準	優・良・可・不可
授業の内容	着付技術の基礎として、浴衣着付けを学び、応用として留袖着付け、中振袖着付けを習得し、SBS着付ディレクター1級、2級取得を目的とする。		
到達目標	美容総合技術の基本理解と、現状把握をし専門的知識に到達する。		

授業計画	時間数	累積時間数
体型補正と小物の扱い	2	2
着物の各部の名称とたたみ方	2	4
長襦袢の着付	2	6
留袖の着付	10	16
帯結び(二重太鼓)	9	25
留袖着付タイムトライアル	7	32
長襦袢の着付	4	36
中振袖の着付	10	46
帯結び(ふくら雀)	4	50
中振袖着付タイムトライアル	10	60

客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

学校名	岡山県理容美容専門学校
設置者名	学校法人 岡山理容美容学園

1 対象学科

理容科	
美容科	美容コース
	トータルビューティーコース

2 概要

[指標の算出方法]

理容科、美容科美容コース、美容科トータルビューティーコースのそれぞれにおいて年間を通して定期試験等で採点をおこない、全履修課目の合計得点をもって各学生の成績として順位づけをおこない、成績の分布状況を把握する。

[客観的指標の適切な実施状況]

前期・後期毎に、各コースの総学生数から退学・休学の学生数をのぞいた学生数を4で除して整数として完全に下位1/4に当たる学生を警告の対象とする。年間を通して定期試験をおこない、学科ごと（コースごと）に全履修課目での総得点をもって学生個人の成績として順位を出し、成績の分布状況を把握している。

①定期試験回毎、②前期（4月～9月）終了時点、③後期（10月～3月）終了時点④学年終了時点（4月～3月）において集計し、①～④の結果を学生に対し成績評価として示している。

* 本試験をもって成績分布を把握するものであり、進級・卒業の為におこなう再試験の結果は成績分布に反映させない

集計	期間	成績分布が下位1/4の場合
②前期	4月～9月	後期において “警告”
③後期	10月～3月	次年度の前期において “警告”

3 公表方法

本書を本校にて自由閲覧とする。

4 分布状況を示す表作成方法

～ 別表参照 ～

下位1/4とは…

170

下位1/4とは...
Zj / 81

卒業の認定に関する方針

理容師法養成施設指定規則、美容師法養成施設指定規則に定められた教科課目および単位数に対し、数値化した成績考查（定期試験等）を実施した上で単位を与え、履修時間の条件を満たした学生に卒業を認定するものとしている。

また、履修が十分でない場合においても、欠席が必要履修時間数（学科では1／3、実習を伴う課目1／5）以上となるよう補講補習を行った上で卒業を認めている。

財産目録

1. 資産総額	
I 基本財産	
II 運用財産	
II 固定資産	
II 流動資産	
3. 純資産(1 - 2)	

2, 791, 742, 801 円	退職給与引当金
719, 889, 389 円	II 流動負債
2, 071, 853, 412 円	未払金
107, 528, 766 円	前受金
1, 920, 000 円	預り金
105, 608, 766 円	仮受金

上記は令和6年3月31日現在における当学校法人の財産目録である。

内

1. 資産総額	内	2, 791, 742, 801 円
I 基本財産	(学)岡山理容美容学園	719, 889, 389 円
II 土地	理事長	316, 613, 354 円
建物	田浩	384, 023, 962 円
構築物	日出	1, 069, 567 円
機器備品	日出	15, 950, 066 円
図書	日出	2, 282, 440 円
II 運用財産	2, 071, 853, 412 円	24, 306, 027 円
施設設備引当特定資産		817, 262, 027 円
減価償却引当特定資産		21, 574, 009 円
退職給与引当特定資産		112, 424 円
電話加入権		953, 830, 517 円
有価証券		252, 863, 330 円
現金預金		599, 000 円
未収入金		1, 306, 078 円
前払金		107, 528, 766 円
2. 負債総額		1, 920, 000 円
I 固定負債		



令和6年6月7日

令和5年度事業報告

1 令和5(2024)年度生 在籍状況(2024年3月31日現在)

△ (昼間課程)		1年	2年	計	定員	充足率
美容科	理容科	15(0)	12(0)	27(0)	80	33.8%
	美容コース	97(1)	90(1)	187(2)	280	87.1%
	T B コース	34(0)	23(0)	57(0)		
合 計		146(1)	125(1)	271(2)	360	75.3%

※()内は休学者数

△ (通信課程)		23期	22期	21期	計	定員	充足率
秋入学	理容科	6	8	15	29	120	24.2%
	通常コース	27	19	33	79	198	39.9%
	合 計	33	27	48	108	318	34.0%

△ 春入学 修得者コース		理容科	美容科	計	卒業数
2018(H30)		4	4	8	R1秋 8
2019(H31)		12	2	14	R2秋 13
2020(R2)		9	5	14	R3秋 14
2021(R3)		14	8	22	R4秋 22
2022(R4)		10	1	11	R5秋 11
2023(R5)		2	1	3	
合 計		51	21	72	

2 国家試験

〈第48回〉 通信課程20期 実技 : R5.8/1(火) 筆記 : R5.9/3(日)

△	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
理容	17(20)	17(17)	100% (85.0%)	74.0% (71.3%)
美容	31(32)	26(24)	83.9% (75.0%)	59.7% (60.5%)

※()内は前年度(第46回)

〈第49回〉 昼間課程R6.3月卒 実技 : R6.2/5(月)~7(水) 筆記 : R6.3/3(日)

△	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
理容	12(12)	11(12)	91.7% (100%)	81.9% (80.3%)
美容	112(116)	110(112)	98.2% (96.6%)	86.5% (88.5%)

※()内は前年度(第47回)

3 学生募集・広報・入試状況

(1) 体験入学・オープンキャンパス等

- ・体験入学 ①4/22(土)・②5/13(土)・③5/27(土)・④6/10(土)・⑤6/24(土)・⑥7/8(土)
⑦7/15(土)・⑧7/22(土)・⑨8/4(金)・⑩8/19(土)・⑪8/26(土) 【598名】
- ・秋のオープンキャンパス ①10/7(土)・②11/11(土)・③12/9(土) 【67名】
- ・冬のプレ体験入学 ①2/10(土)・②3/2(土) 【57名】
- ・学校見学会 3/26(火) 【24名】

(2) ホームページアップ回数

△	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
2023(R5)	7	7	8	11	7	6	11	6	8	5	5	10	91
2022(R4)	8	8	8	13	7	9	7	7	6	4	6	12	95
2021(R3)	7	5	8	10	3	7	16	9	6	5	4	8	88

(3) 昼間課程入試の合格状況

	理容科	美容科		計
		美容コース	T B コース	
A O 入試	18(14)	85(91)	38(32)	141(137)
特待生入試	1(1)	2(5)	1(3)	4(9)
11月入試	2(2)	6(6)	1(3)	9(11)
一般入試	0(2)	1(0)		1(2)
合 計	21(19)	94(102)	40(38)	155(159)

※()内は前年度

4 コンテスト・コンクール

(1) 校内コンテスト

〈1年〉 フォトコンテスト(5/12)

ヘアデザイン画コンテスト(5/31)

理容科・ワインディングコンテスト(11/9)

- ・ワインディングコンテスト(2/9)

- ・ドライヤーセッティングコンテスト(3/6)

美容科・ゆかた総合技術コンテスト(7/12)

- ・ワインディングコンテスト(11/9)

- ・アップスタイル日本髪コンテスト(12/15)

- ・アップスタイル夜会巻コンテスト(2/9)

- ・留袖総合技術コンテスト(3/6)

〈2年〉 フォトコンテスト(7/12)

理容科・アイロンセットコンテスト(7/11)

- ・ミディアムカット技術コンテスト(10/4)

美容科・ワインディング・イノベーションカット・着付・メイクコンテスト(6/10)

- ・オールウェーブセッティング技術コンテスト(10/4)

- ・国家試験課題コンテスト(1/23)

(2) 校外のコンクール

第70回岡山県理容競技大会(5/8・理容会館)

第63回岡山県美容技術コンクール(6/19・岡山国際ホテル)

第15回全国理容美容学生技術大会中国地区大会(8/10・K D D I 維新ホール山口)

参加：理容科6名・美容科24名 結果：優秀賞4名・敢闘賞9名

第15回全国理容美容学生技術大会全国大会(10/31・丸善インテックアリーナ大阪)

参加：理容科2名・美容科2名 結果：理容科ワインディング優秀賞(全国4位)

5 学校行事

4月 3日(月) 第71回入学式(ピュアリティまきび)

6日(木) 前期始業式(1年生)

17日(月) 通信課程修得者コース23期生入所式

24日(月) 通信課程23期入試①

5月 11日(木) スポーツ大会(岡山ドーム) (5月 8日：新型コロナウィルス感染症5類に移行)

23日(火)～26日(金) 定期考查①

6月 校長・副校長面談(1年生)

12日(月) 通信課程23期入試②

7月 4日(火)～7日(金) 定期考查②

12日(水) 校外清掃ボランティア(地域貢献活動)

14日(水) 授業終了・学年集会

8月 1日(火) 第48回国家試験(実技)

8月 19日(土)・20日(日) 第28回うらじや(美踊獅50名)

21日(月) 通信課程23期入試③

9月 1日(金) 授業再開

3日(日) 第48回国家試験(筆記)

4日(月) 通信課程20期・修得者コース卒業証書授与式

9月12日(火) 避難訓練(火災)
 21日(木) A○入試
 25日(月) 通信課程23期入試④

10月1日(日) 第38回学園祭(おかやま未来ホール)・改業式
 9日(月) 通信課程23期入学式
 13日(金) レクレーデー(1年生:姫路セントラルパーク)
 17日(火)~20日(金) 定期考查③
 21日(土) 特待生入試
 25日(水)~27日(金) 修学旅行(2年生:U.S.J・京都・伊勢)
 11月13日(月) 創立70周年記念式典(おかやま未来ホール)・祝賀会(ピュアリティまきび)
 18日(土) 11月入試
 12月5日(火)~8日(金) 定期考查④
 15日(金) 校外清掃ボランティア(地域貢献活動)
 20日(水) 授業終了・学年集会
 1月9日(火) 授業再開
 27日(土) 1月入試
 2月5日(月)~7日(水) 第49回国家試験(実技)
 20日(火)~22日(木) 定期考查⑤(1年生)
 3月3日(日) 第49回国家試験(筆記)
 4日(月) 第70回卒業証書授与式(ピュアリティまきび)
 8日(金) 後期終業式
 17日(日)・18(月) 報奨旅行(卒業生4名・ハウステンボス)

6 教職員研修

(1)校内研修(教員対象)

実施日	講 師	内 容
6/16(金)	福田・中嶋・寺尾	国家試験対策研究(実技・衛生試験)
8/31(木)	西澤・北村・寺尾	新教科「ビジネス教養」について
9/13(水)	久山	研究授業「エステティック理論」
9/14(木)	桐山	研究授業「香粧品化学」
12/21(木)	中嶋・寺尾・福田	国家試験対策研究(受験案内確認)
3/14(木)	金融機関担当者	「知っておきたい経済の基礎知識」

(2)校外・県外の研修及び競技大会への参加

実施日	参加者	内 容
7/6(木)・7(金)	桐山・福田・久山	普通救命講習Ⅰ(岡山市中消防署)
7/28(金)	不破	全専各中国地区研修会(山口)
9/11(月)	岡本・久山	S P C ピューティーコレクション(広島)
9/22(金)	寺尾	動画制作講習会(岡山第1ビデオ)
10/14(土)・15(日)	全教職員	中国地区教職員研修会(ピュアリティまきび)
10/24(火)	寺尾	全日本美容技術選手権大会(広島)
10/25(水)	木村	火災予防講習会(岡山市役所)
11/6(月)	岡本・桐山・久山・松村	即戦力養成講習会(広島)
2/14(月)	木村	火災予防講習会(岡山市北消防署)
3/12(火)	岡本・市原	防火管理基礎研修(消防教育訓練センター)

(3)資格取得講座

実施日	参加者	内 容
11/10(金)	桐山	S B S エステ 2級評価認定試験委員(静岡)
12/4(月)~20(水)	久山	美容技術理論・美容実習資格認定研修会(東京)
3/26(火)・27(水)	桐山	S B S 着付指導講師養成講習会(東京)

監事監査報告書

令和6年5月20日

学校法人 岡山理容美容学園

評議員会
理事会 御中

学校法人 岡山理容美容学園

監事 太田芳幸



監事 薬師寺茂



監事 幸横智恵子



私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人岡山理容美容学園寄附行為第17条の規定に基づき学校法人岡山理容美容学園の令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日）の業務並びに財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人岡山理容美容学園の業務及び財産の状況は適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。

以上